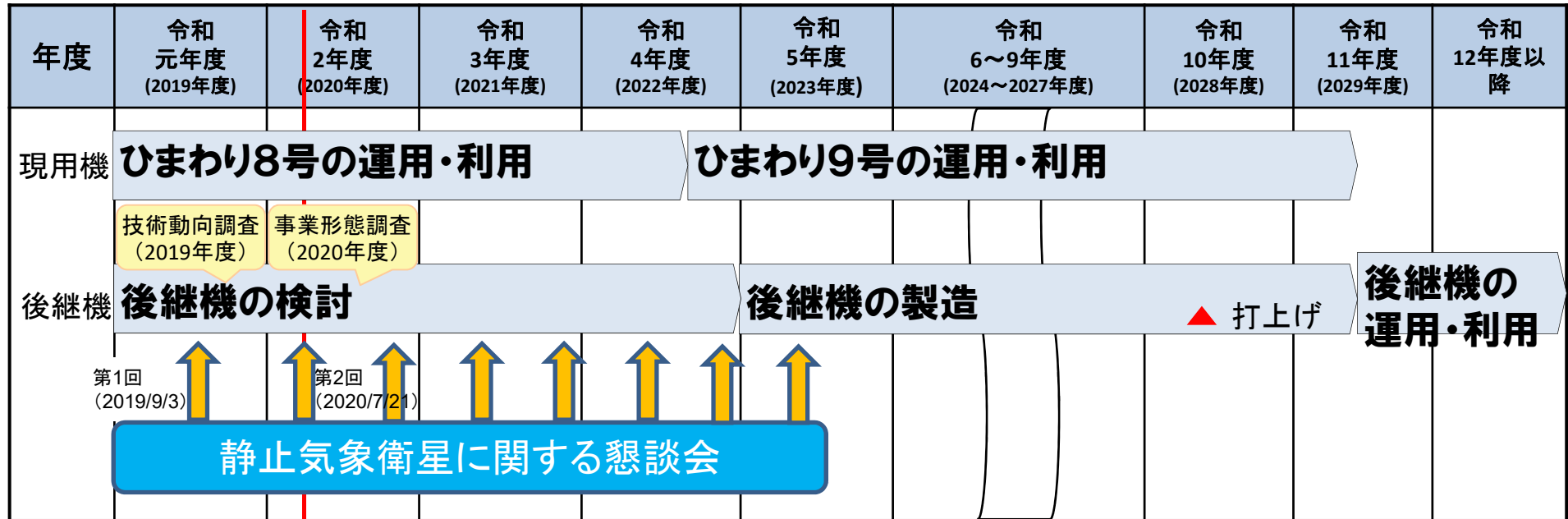


静止気象衛星に関する懇談会について

- ひまわり後継機検討の全体スケジュール
- 第1回懇談会の主な結果
- 本日特にご議論していただきたい事項

令和2年7月21日
気象庁気象衛星課

ひまわり後継機検討の全体スケジュール



「静止気象衛星に関する懇談会」の開催状況

第1回（令和元年 9月 3日）： 静止気象衛星ひまわりの役割・意義

第2回（令和 2年 7月21日）： 国内外の技術動向、最新の科学技術の導入

第1回懇談会の主な結果

【ひまわりの意義】

- ・ 安全・安心な国民生活や社会経済活動に不可欠。防災を軸とした公益性や社会貢献での意義は揺るがない。

【ひまわりの現状と今後】

- ・ 将来にわたって切れ目なく確実に観測する必要があり、わが国の宇宙開発や国家安全保障の観点からみても、他国の衛星に依存することは考えられない。
- ・ 後継衛星についてもPFI方式による場合には、事業の対象範囲や、収益事業の併設を含めて、柔軟に検討していく必要がある。
- ・ ひまわりのデータが産業界で活用されることで、その役割と重要度も増していく。データの無償化の継続、オープンソースのサービス提供が求められる。

【最新の科学技術の導入】

- ・ 新しい科学技術を導入して、国際的にも将来標準となる衛星を整備していくべき。
- ・ 新型センサの搭載の選択肢については、今後のわが国の防災等にどのように有用であるか、技術的な検討を進めるべき。
- ・ 静止気象衛星、低軌道衛星、小型衛星のトータルの観測網として捉え、それぞれの長所・短所を評価しつつ将来を見極めていく必要がある。

本日特にご議論していただきたい事項

最新の科学技術の導入

～ 最新技術の導入による新たな分野への利用拡大の可能性 ～

- ① 国内外の防災力向上等に資するためには、常に最新の科学技術を導入することが必要
- ② 観測センサの検討にあたり、将来的な導入効果の見極めが重要
- ③ 最新技術の導入にあたってはWMOの提唱や欧米の先進的な計画に協調していく必要



視点

- ・ 新しい科学技術の導入による防災への効果
- ・ 求められるセンサと技術的な導入可能性
- ・ 静止気象衛星、低軌道衛星、小型衛星のトータルの観測網として捉え、それぞれの長所・短所を評価しつつ将来を見極め